令和元年度第２回　第三吾嬬小学校　校長「語らいサロン」

テーマ『これからのＰＴＡ活動について』

令和元年６月２２日（土）10:30-11:20　　応接室にて

参加者　保護者１４名

（実際の話を要約して半分くらいにまとめています。）

川中子　おはようございます。今日は前回に引き続き、ＰＴＡ活動について話をしたいと思います。前回１回目は１４人もの保護者の方にお集まりいただきました。前回はＰＴＡ活動のこんなところが大変だったとか、やってみてこんなところがよかったという話が出ました。今日は今の活動をより良いものにするアイディアがでたらいいなと思います。こういう話をしている間にも、ＰＴＡ活動について新聞で取り上げられたりしました。ネット上にもたくさんの記事がのっています。私も興味があっていくつか調べてみたのですが、いろいろ改革をしているという学校の話もありました。そのほとんどがボランティア方式の活動への変革でした。そして、変革をして５年くらいたってみて、新たに見えてきた課題について報告してくれている学校もありました。そんな情報の中にとても興味深い学校があって、大田区の小学校ですが「平等の義務を廃止しよう」ということから始めたそうです。この「平等の義務」をやめることで三つの「や」、「やらないといけない＝義務感」「やらされている＝強制感」そして「やらない人がいる＝不公平感」という三つの「や」がなくなったということです。この、三つの「や」については、三吾小の保護者の方にもこういう気持ちをお持ちの方もいらっしゃるのではないかと思うのですが。

Ａさん　子ども会のことですが、役員になったらやることがたくさんあって、飲み会にも強制参加で、会社で言えば「ブラック」じゃないですか。そういうのが疑問です。私はＰＴＡもやります。旦那が外国人なので「アメリカでも自分の国でもＰＴＡをやるのは普通だよ」と言われました。海外の方が母親も仕事をしている率が多いけれど、みんなやっているということです。それを聞いて私はやろうと思っています。でも、ここではないんですが、ネット上には両方のドアを、現ＰＴＡの人がふさいで、役員が決まるまで帰れません、とか、できない理由を述べよ、とか、そういうことが起こっているそうです。子ども会の方では、飲み会が結構頻繁にあるということで、子どもがいるのにどうやっていけばいいのか。飲み会は子どものためのものではないじゃないですか。そういうのがあると難しいし、私はやったことないからそういう負の情報ばかり入ってきて、私は無理！って思っちゃってるんです。もし（くじで）当たったら、２年間やらないとならない、どうしよう。もう恐怖に感じています。全国的に減らしていこう、という動きがあるようですが、実際には減っていないのではないかと思います。

川中子　今お話しいただいた子ども会の話も、特にこの三吾小の地域はＰＴＡとともに子ども会も盛んなので、そちらも大変なお仕事がいっぱいあるという話を聞いています。Ａさんのご主人はどちらのご出身ですか。

Ａさん　ガーナです。

川中子　海外の方が、ＰＴＡの活動をやるのが当たり前、とおっしゃるのは、やはり文化の違いですかね。私も海外で暮らしていたとき、人々にボランティア精神が完全に浸透しているというのを感じることがありました。今のお話の中にも、「どんな活動をするのかがわからない」ということで、「大変だ」という話ばかりが伝わってきて、余計に恐怖感を煽るというのがあるのではないかと思います。

Ｂさん　やはり、情報が開示されていないと感じています。今年、２年生の副学（年委員）をやることになったのですが、上のお子さんがいると内容もわかるのかもしれませんが、みんな学年委員長って何をやるのかわかっていなくて、なってから初めて少しずつわかるようになってくるという状況です。先程から話に出ている、マイナスのイメージというのも、みなさん、何やるかわからないというところから不安になっているのではないかと感じています。前回の語らいサロンの記録を読んでみて、そこで初めて知る情報もあったりして。知っている人には当たり前のことでも、そこに入っていない人には知らないことばかり、未経験の人たちにはそこが伝わらないので、そこを伝わるようにすると変わるのかなと思いました。

川中子　そうですね。情報が伝わっていかない、伝える方法が考えられてこなかったって言うのは、前回よくわかりました。経験された方は、やってみたら心配していたほどではなかったという意見もありました。それから、単年度で交代していくので余計にわからない状態がつづいているという話もありました。そういうのは、なんとか改善できるのではないかということで、今ＰＴＡの本部役員さんの方でも、各委員さんがどういう活動をしているのか皆さんに知ってもらえるような取り組みを考えているところです、という話で前回は終わったのですが。その辺りについては、いかがですかね。

Ｃさん　私はＰＴＡの方々が一生懸命してくださっていることにすごく感謝をしています。その中で、私も当たったら大変だというのはすごく伝わっていて、友達は土日も携わっているとか、仕事が終わってもＰＴＡの仕事をやっているというのをうかがって。小さい子がいる方もいて。だからとても感謝をしているんですが、子どものためだからやらないとだめだとは思っています。でも、自分がなったらどうしようと思っていたところ、今年は子ども会の班長と教養部の部長に当たってしまいました。部長を始めてみて、連絡ひとつするのもいろんなメールを打ったり、やり方がよくわからなかったりして時間がかかるのですが、その中ですごく感じているのは、部員さんの中には、自分がなったことさえも知らない方がいて、その方に連絡してもなんのことかわからないという話もあって、そんなことからやらないといけないの？というのは…。人の気持ちをどこまで納得させてやらせるか、という仕事というのは、非常にきついなと感じています。ボランティアなので、わかりました、やります、という方ならいいですが、聞いていないし、まず子ども会とＰＴＡが何かもわかっていないところからの話になっていて、あなたは誰？からのスタートでした。やはり、今後のＰＴＡ活動の課題なのかなと思うのですが、強制的に「やらされる」　もちろん、みんな公平にやってもらいたい。でも公平のままでこれを進めるのか、ボランティアでやるのか。でもやる人って本当に出てくるのか、は疑問です。

川中子　確かに、今のお話のように、担当になった方がその他の人たちの気持ちの部分まで抱えていかなければならないというのは、とっても大変なことだと思います。それを担当の方に任せっぱなしになっているのは、私たち学校としてもとても心苦しい限りです。もう少しうまくいかないかと思っています。そこで、いろいろ改革をしたという学校のことを調べてみますと、まずほとんどはボランティア制にしたというところから始まっています。必要なときに、手伝ってもらえませんかと声をかけて集まってもらう。ただ、その声をかける方は、本部役員のような方はどうしても必要だなと思います。で、成功したという学校では、強制からボランティア制になったけれど、それまでの活動が滞るようなことはほとんどなかったという話もあります。しかし、それから５年たった学校の話では、始まったばかりの頃は参加率もそんなに下がらなかったらしいのですが、だんだんやらなくてもいいやということになってくると集まりにくくなってきたとのことです。５年目近くになってきたときには、早めにこういう活動をしているんです、こういう手助けが必要ですというのを皆さんに知ってもらって、各行事の前に声かけをしているということです。加えて、「卒業するまでに、何かのお手伝いに一回くらいは参加していただきたい」という呼び掛けもしたということでした。やはり、それぞれやってみないとわからないこともあって、三吾小でそういうことができるのかってことはしっかり考えてみなければならないな、と思います。ところで、広報。こういうことをやっていますというのを、うまく知らせていくための方法で何かいいアイディアはありますかね。

Ｄさん　入学式の時に、地区長さんたちが前に立ってご挨拶してくださったっていう記憶があるんですが、そういう時間ってあまりないですよね。１年生の保護者会の時に、各担当の方が入って説明してくれてそこで初めて詳しく説明が聞けて、質問もできて。それまでは紙面だけではわからないこともあるし、わからないことをどこに聞いたらいいのかもわからない。やはり入学式の時にはみんないらっしゃるので、地区の説明やＰＴＡ活動の説明をして、保護者会の時に役員決めをやりますという話をしてもらえたらいいと思います。そこで６年間のうちに１回は協力願いますと言われてしまえば、ああ、そうなんだなと理解できるのではないでしょうか。そうすれば、何年目の時にやれるかななど計画がたてられると思います。あと、ゼロの周年の年は大変だから避けたい、とか。４年生では２分の１成人式だ、６年生では卒対だ、などと。私がそういうのをやったときは、上のお子さんで経験している方がいて、すごくやり易かったんです。ボランティアは、そんなに積極的にはやらない、声かけられればやるけど、という人も多いのではないかと思うんです。それに、ベテランの方がいなくなったときはどうするかとかも大変です。だから、ボランティアもいいんですが、やはりまずはみんなに知って、みんなに取り組んでもらうということも大切だと思う。入学式や、新入生保護者会

の時なんかに説明をして、知ってもらうっていうのが大事なんではないでしょうか。

川中子　そうですね。今も実際に行われてはいるけれど、まだ不十分であるというところですね。今のお話にもあった通り、みんなが、まず知るっていることが大事なポイントかなと思いますね。前回も話に出ましたが、本部役員さんたちの方で、活動の内容がわかるようにスライドショーのようなものを作って説明できたらという案も出ているそうです。それから、学校では学校だよりやホームページというのを使って情報を発信しているんですが、困ったことがあった時にそういうところを見てみるということもできるかなと思っています。改革の一つの手段として、そういうのを使って、SNS やホームページなんかを使って情報発信をしていくというアイディアもあるようですがＰＴＡの方ではいかがですか。

E さん　えー、校庭開放についてのアンケートをウェブで行ったのが、第一段で。今その結果をふまえてＰＴＡのホームページを作ろうかという話をしています。校庭開放の曜日や、中止の際の連絡用に使うことを検討しています。

川中子　そうですか。そういう便利な道具は上手に使っていくといいと思います。会社の働き方改革でも、例えばチームの予定表を全員が共有することで、時間を有効に使えるようになったという会社もあるそうです。まあ、使い慣れないと難しいという人もあるかとは思いますが、これからの時代はどうしてもこういうものは使いこなせるようになっていかないとなりませんね。それでは、時間もそろそろ予定時刻となりますが、最後にこれからの三吾小のＰＴＡとしてどんなところを目指していけばいいかということについて、何かお考えのある方はいらっしゃいますか。

F さん　子ども会のことでよろしいですか。子ども会でも一年間の予定というのがだいたい決まってしまっていて、この時期にこれをやらなければならないとなっています。そうなったとき、班長だから、副地区だから必ずお手伝いしてください、というのはあまりしたくないんです。みんなに声をかけて、仮にお手伝いしてくれる人が集まらないのなら、その行事はやらないという選択もありなのかな、って思っています。そして、子ども会の準備のために（自分の）子どもとの時間がなくなってしまう、というのは、子どものための活動ではなくなってしまうので。当たり前にやって来たものも、やめる、っていう選択肢もあるのかな、と。

川中子　そうですよね。実は、今いろんなお話を聞いていて、すごく強く感じているんですが、今、私は「働き方改革」を進めていきたいと切に願っているんです。今まで当たり前にやってきたことを、当たり前にやっていったら、時間を減らすなんてことは不可能なんですね。それでは、当たり前にやってきたことも含めて、本当に大切なことは何なの？という、目的に照らし合わせて見直すことが必要です。勇気を出してやらないと、変わらないなと思うんです。実は、今日ご紹介した大田区の学校のＰＴＡ会長さんは、毎日新聞の記者さんだったそうです。新聞記者なんて、やはり、仕事はものすごく忙しいはずですよね。その方が、この改革を進めるなかで、いろんなことに気づき、生き方が変わったと言っているんですね。例えば、ＰＴＡのホームページを作ろうという時に、仕事でホームページを作っている方が協力してくれて、いいホームページができたという経験の中で、自分が仕事としてやってきたスキルが地域や社会に還元できるということは素晴らしいということに気づいたというのです。それまでは地域社会と自分の仕事というのは離れたところにあったけれど、それをやることによって、地域社会の中に自分の居場所ができる、と。それから、お父さんたちに学校に来てもらうようになったら、子どもたちがすごく喜んだという話もあります。親が学校に来るようになって子どもたちの安心する。それまでお父さんというのは休みの日には家で寝ていて、子どものことはお母さんに任せっぱなし。子どもとお母さんが学校の話をしても何もわからないから他人事のようになっていたけれど、自分も学校に関わるようになってみたら、家族の会話が増えた、といういい点があったというのです。「とはいえ、仕事との両立は大変ですよね？」というインタビューに対して、この方は「確かに大変なんだけれど、仕事と違うことをやることで気分転換にもなった」ということもあり、「でも、休日も削られるようなことになっていかがなんですか」と問われて「これまで、オフが少なかったのだと思います。休まないのが当たり前、人が休んでるときに仕事してこそ、自分のステイタスが保たれるという意識があった。しかし、ＰＴＡ活動をやるようになって、やはり、休むときには休んで、別のことをしたほうが、自分の人生にとってプラスになるし、家族との生活も大切にするようになった」と、この方が言っているんですよ。これって、もはや、ＰＴＡの話ではなくて、「生き方」そのものの問題になっているんですね。「働き方改革」「ＰＴＡ改革」っていうのは、私たちの生き方の改革なんですね。仕事があるから、忙しいから、できなくって当たり前という生き方だったんですよ、今までの日本の社会というのは。それを、これからの社会では変えていかなくてはならないという、すごく大きなテーマに結び付いているんだなあと。だからこういう問題を一つ一つ解決していくことというのは、私はとっても大事なことだなあと思っているんです。人生１００才までいきる時代になっているんです。これからの残された人生をどう、社会と関わってい生きていくのかというのはとても大事な問題です。それをこの三吾小の皆さんと一緒に共有していくことができたら素敵だなあと思っているんです。もともとこの三吾小の地域は、昔から人情溢れる町としてやって来ているので、そこにこういう考え方も一緒に共有できるようになったらとってもいいなと思っています。いかがですか。お父さんの立場としてはいかがですか？

Gさん　まあ、確かに、抽選んで地区長になりました。ＰＴＡもやることになっている、って知らなかったんですが、やってみたらまあ、何とか楽しくできればと。やるからには楽しくできればと思っています。一つ、手伝いが足りないって話ですけど、子どもが中学生や高校生になった親って、ちょっと暇になるじゃないですか。そういう OB の人たちにもう少し手伝ってもらうとかはありなのかなと思っていて。自分も将来、子どもが大きくなったときには、運動会手伝ったり、三吾フェスタを手伝ったりできるようにしたいなと思っています。そうやって、関わる人を増やせば、ボランティアする人も多くなっていくんじゃないかなと。

Ｐ会長　私も、去年から会長をやって、今まで何をやるのかも知らなくって。やってみるといろいろとあるんですね。寺中関係のことがあったりですとか、ＰＴＡ協議会というのもあって、それから青少年委員とか寺中地区育成委員会ですとかも関わりをもっているんです。やはり、みんな大変なんですけれど、みんな善意でやってくださっているんですよね。そういう方々から学ぶことが多いんですが、自分でやっていても大変だなあと思うことがあるんですが、実際そういう方々は子どもが卒業したあともずーっとやっている方が多いので、そういった方々には敬意をもつようになりました。今、三吾で考えているのは、昔ファーザーズ会、親父の会っていうのがあったんですが、どんどん下火になって存在しているだけになってしまっていたんですが、それを新たに活動を再開したいと考えていまして、名前を変えて「サポーターズクラブ」と、つまりお父ちゃんだけでなくお母ちゃんにも集まっていただいて。ただ入会するだけでもいいし、時間があるときに参加できるようなボランティアの会を作ろうと思っています。もう、作っています。今、１０人ちょっと集まっているんです。今度、４地区の町会が集まって盆踊りをする会があるんですが、そこにＰＴＡとして協賛、という形で参加するんですが、そこにサポーターズクラブの方に参加してもらおうかと思っていて。今考えているのはウェブでアンケートをとって、入会の勧誘と、するしないは別として、出店を出したいのでお手伝いお願いできませんかと。本部役員はパトロールしなければならず、人手が足りないんです。そこで、お手伝いの方が集まれば出店もやるし、集まらなければやらないというふうに考えています。いろいろな方の善意を巻き込んでいければなと思っています。先日の運動会でも後片付けの手助けを声かけしたら、結構お父さんたちも集まってくれたので、少し可能性があるんじゃないかなと期待しています。

川中子　そうですね。ボランティアでやるとするなら、集まればできるし、集まらなければ集まらなかったなりの人でできる範囲のことを考える、もしかしたらできないかもしれないということも含めて、判断していかなければいけませんよね、やはり。何でもやらなければいけないという、強制的なものばかりが残っていると苦しいことに繋がっていってしまうのかなと。でも、やはり、中心となって動いていただく方、考えていただくかたというのはどうしても必要なのかなと感じます。そこに学校がどう関わることができるかということも含めて。一般の先生たちには、やはり、子どもの教育に専念させたいので、私なりの管理職がお手伝いできればいいです。それでは、時間がまいりました。いろいろなお話をいただきまして、ありがとうございました。２回に渡って話をして来て、いろんなことが、こう、クリアになった。少し方向性が、矢印が見えてきたなあと思います。私も桑原会長とも相談しながら、ＰＴＡのことも、それから学校の改革のことも進めていけたらなと思っております。ぜひ、皆様もまたお知恵をお貸しください。そして、サロンはこれからもまた別のテーマでもやりたいと思っておりますので、そのときもまた来ていただければと思います。今日は、どうもありがとうございました。

（文責:川中子）